

## 関係者ヒアリングについて（案）

平成21年1月23日

各ケースの詳細な分析、及び「選択肢の候補」の絞り込みを行うに当たっては、今次の仮分析結果にて想定された活動量や技術について、実態との比較による妥当性の検証が必要となる。上記の観点から、産業・民生・運輸・転換の各部門、及び各モデルにおいて具体的に活動量を想定されている業種を対象に、以下要領にて産業界等からのヒアリングを実施することとする。

### 1. ヒアリングの対象

ヒアリングの対象は大別して以下のとおり。

- (1) 産業・転換部門の主要排出産業における関連団体
- (2) 運輸・民生部門の動向に知見のある関連団体
- (3) モデルにおいて活動量を具体的に想定している業種の関連団体

### 2. ヒアリングの時期、実施方法

2月上旬から3月上旬にかけて、事務局によるヒアリング（3～4回程度に分けて実施。検討委員会委員も参加を希望する場合は参加）、中期目標検討委員会によるヒアリング（次回及び次々回の2回程度で実施）の2段階に分けての実施を予定。

### 3. ヒアリング項目

各モデルにおける活動量見込みの評価

- 将来的な活動量・排出量の変動要因
- 昨今の業界の状況・実態、国際的な業界展望

各モデル分析結果における省エネ等の削減ポテンシャルの評価

- 代表的な技術の導入実態・見込み・コスト
- 業界全体での削減ポテンシャル
- 原単位の現状と改善見込み
- 代表的技術の国際的な導入状況（セクター別アプローチ）

その他

- 他産業の対策への貢献
- 政策への要望
- 国際競争力に対する考え方（リーケージへの対処） 等